

2005 FJ1600 鈴鹿シリーズ

■7月16日 土曜日 ドライ フリー走行

前回の第3戦で優勝でき、そのいい流れのままレースに挑みました。そして今回は金曜日の練習が無く土曜日1日だけで予選、決勝のセットを決めなければなりません。今まではある程度決まっていたセットから少しだけ変更しながら走っていたのですが、今回は自分の車の不利な面である「ストレートスピード」をちょっとでも稼げるようなセットを探すのに時間を費やしました。1本目から大幅にセットを変更しながら乗っていたのですが、以外に違和感無く乗ることができタイムも2番手の人を約1秒ほど離れてかなりいい感じのフィーリングを得ることが出来ました。2本目もそのセットを素に程度のいいタイヤで予選を想定して走ったのですがこのセッションもトップタイムを記録でき、今回は絶対にPPを取れると感じていました。そんな中、最後の練習を走ろうとエンジンをかけた時、いつもと違う音が聞こえます。一瞬いやな予感がしたのですが、「ブッシュロッドが曲がっただけだろう」と思いメカニックの方と相談の上、この日の練習は切り上げることにしました。しかし、エンジンの状態は予想以上に悪く、とうとう載せ変えることになりました。しかも残っているエンジンは走行距離が通常の2倍以上走っているのしかなく、何より心配なのはぶっつけで予選・決勝を走らなければならないということでした。けれど、こういう時にこそ「自分の本当の実力が試される」なあと感じ、最後には楽しめてる感じまでありました。

この時に夜遅くまでかかってエンジンを載せ変えてくださったレプリスポーツの皆さんには本当に感謝しています。

■7月17日 日曜日 ドライ 公式予選

この日は朝から曇り空で予選・決勝と、どんなコンディションになるか楽しみだったのですが雨が降ることは無く、ドライのまま15分の公式予選は始まりました。走り始めは昨日のトラブルの為、初めて使うエンジンだったこともあり、今までのエンジンとどこが違うのか探りながら乗ったのですが、ヘアピンやスプーン2個目など回転が下がるところのトルクが大分無いように感じます。しかし、このエンジンでも、もちろんPPを狙っていたので半クラッチを丁寧に使いアタックします。3周目にはトップに躍り出て、しばらくはそのままキープするのですが、タイヤの1番いいところで他車にひっかりそれ以上タイムを縮めることが出来ませんでした。そして後半に1人、フィナルラップでもう1人に抜かれ最終的には3番手で予選を終えました。今回はエンジンの事もあり、走る前からいつもの様に簡単にはいかないということがわかっていました。なのに「タイムを出す」と決めていた周にクリアを作れなかったり、他車のスリップを上手いこと使えなかったのは完璧に自分のミスです。これからは勢いだけの行き当たりばったりじゃなく、頭を使ってどんな状況でもベストを尽くせるような走りを目指していきます。

■7月17日 日曜日 ドライ 決勝

午後3時過ぎ、自分としては雨が降ってくれるのを期待していたのですが、決勝が始まる頃も曇り空でドライコンディションのままスタートとなりました。予選3番手というのは決して満足できるような順位ではないのですが、十分優勝を狙える順位なので決勝用セットに変更し、フォーメーションラップからしっかりとタイヤを温めてスタートから狙っていきます。

そしてシグナルレッド・消灯・スタート。

予選2番手の選手が物凄いフライング。それを見ていた自分も動揺してしまい、かなりホイールスピンさせて1コーナーまでに1台にパスされ4位に順位を落としてしまいました。その後すぐに3番手に浮上し、前2台の様子を伺いながらついていってたのですがアクセル全開のコーナー「まっちゃん」やストレートの度に離され、130Rからショートカットのブレーキングで追いつく、の繰り返しでした。それでも徐々に前2人に離され一時は4番手まで落ちたのですが、自分の唯一の抜きどころである130Rからのブレーキングで一気に2台をパスし2番手までポジションをあげます。しかし、そこから後ろの選手に追いつかれたと思ったらストレートでパスされ、次の周のストレートでも一気に2台にパスされ5番手までポジションを落としてしまいました。そして残り「3周」の表示を確認した周の130Rでトップ2台が接触リタイヤ。その瞬間「絶対に勝てる」と確信したと同時に自分の唯一のバッシングポイントである130Rから黄旗が...どうすれば一番いいか考えた時「このまま3位でゴールしてもシリーズポイント的には2位の選手とかなりの差になる。けれどこういうエンジンだからこそ勝ちたかったし、前2人とのタイム差を見ても3周あれば絶対トップになれる」と思い、その結果僕がとった行動は、ヘアピンで2位の選手のインをさすことでした。けれど相手選手もラインを残してはくれず接触し、相手はその場でリタイヤ。自分も右フロントのアームが曲がりタイヤはとんでもない方向を向いていたのですが簡単に諦めるのは嫌でそのまま再スタート。けれど次のコーナーであるスプーンでステアリングをきる事が出来ず真っ直ぐタイヤバリアまで行き、このまま走行するのは無理だと感じてコース脇に車を止めました。

今回は自分がレースを初めて初のリタイヤということもあり、物凄く悔しかったです。このレースを見たり聞いたりした人はいろんな意見があると思います。自分でもシリーズチャンピオンのことを考えると「リタイヤするくらいだったら3位でポイントを確実に取った方がいい」と思います。けれどそれは結果論であり、自分はもちろん当瞬間までリタイヤするなどと思っていなかったし、もしそのまま3位でゴールして、結果的にシリーズランキング2位の選手をぶっちぎったとしても絶対に後悔したと思います。でもそれは自分の気持ちの面でしかなく、接触したことは絶対に良くないわけで、結局はこういう状況の時でも勝てるような実力が今の自分にはなかったからこういう結果になってしまったんだと思います。

今回は物凄く考えさせられたレースでした。それと同時にもっともっと速くなりたいと思ったし、精神面も強くなっていきたいです。これからレースを続けていく中ではこんな経験も凄く役に立つと思うので、この経験を活かして残り3戦、結果、気持ちとも後悔しないようなレースを目指していくので引き続きご指導、応援よろしくお願いします。